

要 旨

本研究は、外国語活動において、感情のやり取りを大切にしながら自分の気持ちや考えを伝え合おうとする児童を育成するための指導の在り方を探ったものである。互いの気持ちを温かくしたり、相手を知ろうとしたりする自分の気持ちや考えを伝える簡単な英語表現「ぼかぼかイングリッシュ」を取り入れたやり取りを行わせた。その後、友達とつながる楽しさや嬉しさを伝え合ったり、友達とのやり取りを褒め合ったりする活動「ぼかぼかタイム」を行うことで、互いの気持ちを大切にしながら自分の気持ちや考えを伝え合おうとする児童の姿が見られるようになった。

<キーワード> ①ぼかぼかイングリッシュ ②ぼかぼかタイム ③伝え合おうとする

1 研究の目標

外国語活動の交流する場面において、感情のやり取りを大切にしながら自分の気持ちや考えを伝え合おうとする児童を育成する指導の在り方を探る。

2 目標設定の趣旨

平成23年度よりコミュニケーション能力の素地を養うことを目標に始まった外国語活動は、新たな変革期を迎えようとしている。平成32年度より中学年に外国語活動、高学年に教科「外国語」が導入される。平成29年7月の学習指導要領解説外国語編では、目標を「コミュニケーションを図る基礎（中学年では素地）となる資質・能力の育成」とし、高学年で育成する「思考力、判断力、表現力等」を、「自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力」⁽¹⁾と示している。同月に出された小学校外国語活動・外国語研修ガイドブックにも「言語活動を通して児童が自分の気持ちや考えを表現できるようになることが求められる」⁽²⁾と明記された。また、直山木綿子は、自分の考えや気持ちを伝え合う際は、ただ与えられた表現を言うのではなくどの表現を使うとより相手に伝わるかと、いくらかある表現の中から自分なりに選び、判断して言う活動を仕組むことが大切と述べている。

平成28年度国立教育政策研究所の調査研究報告書によると、「外国語の授業で楽しいことは何か」に、「ゲームをすること」76.4%に対して、「英語で自分のことや意見を言うこと」が42.9%という半数を切った結果から、「外国語活動が歌やゲームだけで終わってしまい、児童が自分の立場で自分の考えや気持ちを指導者や友達と伝え合うコミュニケーションにまで至っていない可能性がある」⁽³⁾と述べられている。これまでの自分自身の実践を振り返ってみても、英語に初めて触れる子供たちにどのようにして自分の気持ちや考えを伝え合う活動に取り組みせるかが課題であった。

よって、これからの外国語活動において、自分の気持ちや考えを伝え合うことは大切だと考える。

また、齋藤孝は、「コミュニケーションを『意味や感情のやり取り』と定義しており、意味のやり取りに加えて相手のことに関心があるとか、一緒に活動して楽しいという感情のやり取りが必要」⁽⁴⁾と述べている。このことから、自分の考えや気持ちを伝え合う中において、児童が言葉による意味のやり取りだけでなく、感情のやり取りをすることが大切なのではないかと考える。また、感情のやり取りを大切にすれば、言葉と同様に、表情やジェスチャー等の非言語メッセージを使うことも大切にすべきであると考えられる。

そこで本研究では、外国語活動の交流する場面において、感情のやり取りを大切にしながら自分の気持ちや考えを伝え合おうとする児童を育成するための指導の在り方を探りたいと考え、本目標を設定し、研究を進めることとした。

3 研究の仮説

交流する場面において、自分の気持ちや考えを伝える簡単な英語表現（ぼかぼかイングリッシュ）を取り入れたやり取りの後に、友達とつながる楽しさや嬉しさを伝え合ったり、友達とのやり取りを褒め合ったりする活動（ぼかぼかタイム）を行えば、互いの気持ちを大切にしながら自分の気持ちや考えを伝え合おうとする児童が育つであろう。

4 研究方法

- (1) 研究紀要や文献などによる外国語活動における伝え合う力の育成に関する理論研究
- (2) 授業参観やアンケート調査を基にした児童の実態調査
- (3) 検証授業を通した、手立ての有効性の考察及び仮説の検証

5 研究内容

- (1) 外国語活動の理論や指導法についての先行研究や文献等を基に、理論研究を行う。
- (2) 児童の実態調査から、有効な手立てを明らかにする。
- (3) 所属校の5年生において検証授業を行い、仮説を検証し、手立ての有効性を示す。

6 研究の実際1(実践化への手立て)

- (1) 文献等による理論研究

樋田光代は、気持ちを表す簡単な英語表現を児童の実態に合わせて選び与えていくと、児童の活動が広がり、より豊かなコミュニケーションを図るようになると述べている。よって、これからの外国語活動において、定型表現によるやり取りに加え、自分の気持ちや考えに合った簡単な英語表現を伝え合うことは、児童のコミュニケーションをより豊かにするために大切だと考える。では、どのような表現を与えたらよいのだろうか。宗誠は、“Great!” “Good job!”などの褒め言葉、“You can do it!” “Close!”などの励ます言葉など、他者の気持ちに寄り添い、かかわりを深くすること自体を目的とする相互伝達系の言葉かけをどんどんすることで、人間関係や授業の雰囲気ぐつとよくなり、子供のやる気を出す効果が期待できると述べている。そして、やり取りをする際には、込められたメッセージにリアクションをすることが重要だとし、一往復半のやり取りの重要性を述べている。そこで、互いの気持ちを温かくしたり、相手を知ろうとしたりする自分の気持ちや考えを伝える簡単な英語表現を「ぼかぼかイングリッシュ」とし、定型表現によるやり取りの中にぼかぼかイングリッシュを取り入れることで、自分の気持ちや考えをより伝えやすくなり、伝え合おうとするのではないかと考える。また樋田は、表現を与える際には、児童が求める表現を与えることで、「生きた英語」として身に付いていくと述べていることから、児童が使いたいと思った表現も適宜、ぼかぼかイングリッシュに加えていくことで、自分の気持ちや考えをより伝え合おうとすると考える。

辰野千寿は、友達とつながる楽しさや嬉しさを感じることで親和欲求が満たされたり、友達から褒められ満足感を感じることで承認欲求が満たされたりすることは、児童の学習意欲を高め、積極的に学習を行うことにつながると述べている。また、相川充は、児童は自分の行動が褒められれば、肯定的な結果を再度得ようとして、その行動を積極的に身に付けようとする述べている。そこで、友達とつながる楽しさや嬉しさを伝え合ったり、友達とのやり取りを褒め合ったりする「ぼかぼかタイム」を行えば、またやり取りを

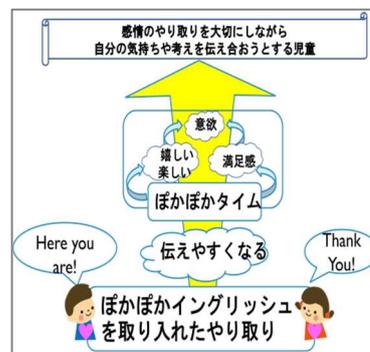


図1 研究構想図

またやり取りを

したいという意欲を高め、さらに伝え合おうとする姿につながるのではないかと考える。

以上のことを踏まえ、交流する場面に、ぼかぼかイングリッシュを取り入れたやり取りを位置付け、その後にはぼかぼかタイムを設定すれば、互いの気持ちを大切にしながら自分の気持ちや考えを伝え合おうとする児童が育つであろうと考える（前頁図1）。

(2) 具体的な手立て

ア ぼかぼかイングリッシュを取り入れたやり取り

ぼかぼかイングリッシュは、相手のことを知ろうとする表現、互いを温かくする表現とする（図2）。児童がぼかぼかイングリッシュを取り入れたやり取りの中で、互いの気持ちを温かくしたり、相手を知ろうとしたりすることで、自分の気持ちや考えを伝えようとするをを目指す。初めて外国語活動に取り組む児童の実態を踏まえ、短い言葉で、児童が日常生活の中で聞いたことがあると思われる簡単な表現を取り扱う。活動の中で児童が使いたいと思うであろう表現を用意し、児童が選んで使えるようにする。また、児童が使いたいと思った表現も適宜付け加えられるようにする。児童には「やり取りのこつ」として「た（尋ねる）こ（答える）ぼ（ぼかぼかイングリッシュ）」を提示する（図2）。また、表現を使う際に戸惑う児童への助けとして「ぼかぼかスティック」、児童が使いたい表現を得るための工夫として「One more たこぼ」シートを用意する（資料1）。



図2 検証②で児童が主に使ったぼかぼかイングリッシュ

資料1 ぼかぼかスティックと「One more たこぼ」シート

イ ぼかぼかタイムの設定

ぼかぼかタイムは、友達とのやり取りの中で感じた楽しさや嬉しさ、友達のやり取りのよさを付箋（ぼかぼかふせん）に記し、互いに読み合い紹介し合うことで、友達とまたやり取りがしたいという意欲を高めることを目指す。単元の中盤に、第三者の児童が友達のやり取りを具体的に褒める活動（ぼかぼかタイムA）を、単元の終盤に、やり取りをした児童自身が友達とつながる楽しさや嬉しさを伝え合う活動（ぼかぼかタイムB）を設定する（図3）。もらった付箋は、ワークシートに貼り、いつでも見返すことができるようにする（資料2）。

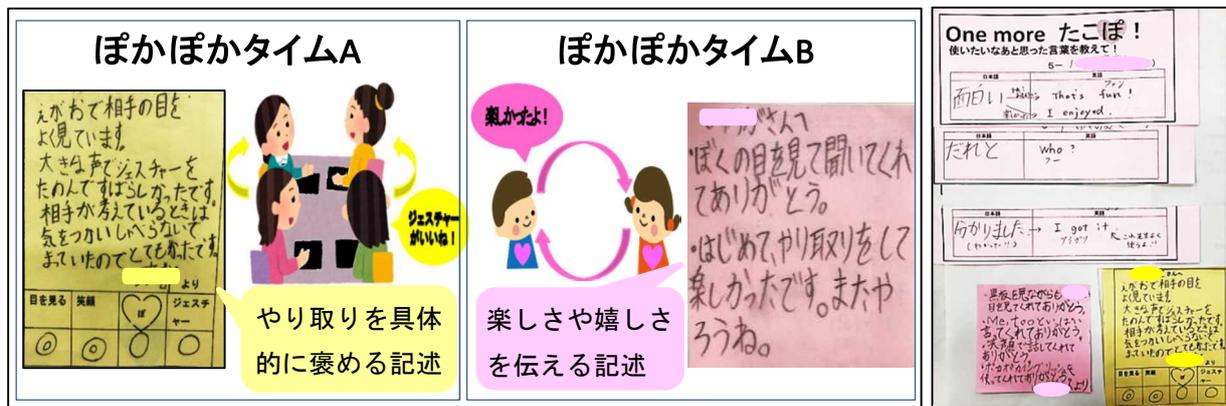


図3 ぼかぼかタイムA、ぼかぼかタイムBのイメージ図

資料2 児童のワークシート

(3) 自分の気持ちや考えを伝え合おうとする児童を育成する学習過程

検証授業は3時間行う。1時目にぼかぼかイングリッシュに出会わせ、ぼかぼかイングリッシュを取り入れたやり取りに取り組みさせる。そして、2・3時目に、ぼかぼかイングリッシュを取り入れたやり取りとぼかぼかタイムを組み合わせた学習過程を設定する。具体的には、やり取りとやり取りの間にぼかぼかタイムを設定する(図4)。

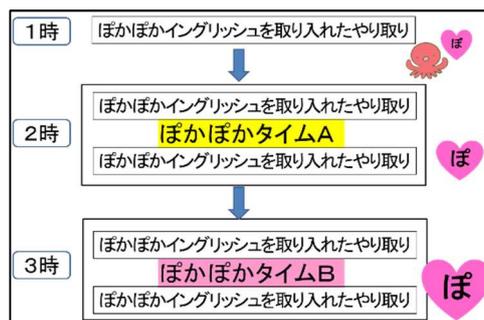


図4 伝え合おうとする児童を育成する学習過程

(4) 検証の視点

ア ぼかぼかイングリッシュを取り入れたやり取り【検証の視点Ⅰ】

互いの気持ちを大切にしながら自分の気持ちや考えを伝え合おうとしているか。

イ ぼかぼかタイムの設定【検証の視点Ⅱ】

またやり取りをしたいという意欲を高めたか。

7 研究の実際2 (授業実践を通しての結果)

(1) 授業の位置付け

第5学年の児童に、6月に検証授業①「好きなものを尋ね合おう」(3時間)、10月に検証授業②「What's subject クイズを楽しもう」(3時間)、1月に検証授業③「What's memories クイズを楽しもう」(3時間)を行った。検証授業①では「宿泊訓練で一番好きだった活動」を、検証授業②では「自分で作ったオリジナルの教科」を、検証授業③では「この一年間の一番の思い出」を予想させ、やり取りを行わせた。クイズ形式にし、相手の言葉に興味を持たせることで、感情のこもった反応につながると考えた。

検証授業③の本時のねらい、主な学習活動は以下に示す。

検証授業③ 自作の単元「What's memories クイズを楽しもう」(全4時間)		
	本時のねらい	主な学習活動
第1時 (1/4) 1月12日	What's memories クイズを楽しもう	<ul style="list-style-type: none"> これまでのぼかぼかイングリッシュを思い出し、新たな表現を知る。 Do you like ゲームをする。 ペアで、この一年間の一番の思い出をクイズ形式で尋ね合う。
第2時 (2/4) 1月16日	What's memories クイズを楽しもう	<ul style="list-style-type: none"> Guess 5 ゲームをする。 ペアで、この一年間の一番の思い出をクイズ形式で尋ね合う。 ぼかぼかタイムAでやり取りを褒め合う。
第3時 (3/4) 1月19日	What's memories クイズを楽しもう	<ul style="list-style-type: none"> Do you like ゲームをする。 ペアで、この一年間の一番の思い出をクイズ形式で尋ね合う。 ぼかぼかタイムBで感想を交換し合う。
第4時(事後) (4/4) 1月26日	What's memories クイズを楽しもう	<ul style="list-style-type: none"> Do you like ゲームをする。 ペアで、この一年間の一番の思い出を、15分間自由にペアを変えながら、クイズ形式で尋ね合う。

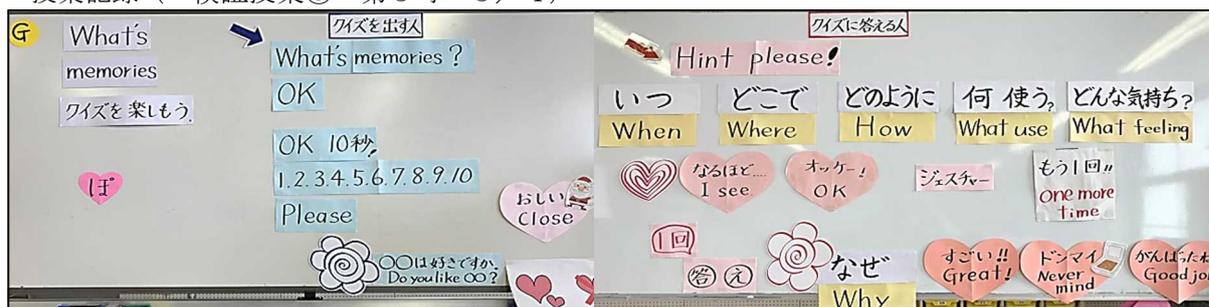
(2) 授業の実際

ア 単元名 「What's memories クイズを楽しもう」

イ 単元の目標

What's memories クイズを楽しみながら、自分の気持ちや考えを相手に伝えようとする。

ウ 授業記録 (検証授業③ 第3時 3/4)



本時で使用した板書

クイズに使った(定型表現)

What's memories? _____
 Hint please! _____
 OK! _____

自由

OK! 10秒!
 1,2,3...8,9,10!
 Please! _____
 答え _____

What's memories? _____

What use? _____
 ドッジボールであひて ボール

When? _____
 休み時間 投げる

Where? _____
 運動場

How? _____
 うれしい気持ち

What feeling? _____

【クイズを出す人】

【クイズに答える人】

本時で使用した
ワークシート

What's memories?	Hint please!
OK!	Where?
Ground 運動場ね。	I see. How?
投げる	投げる? OK .What use?
Ball	OK! What' feeling?
とても嬉しい気持ち	OK! Gesture please!
(投げるジェスチャー)	わかった! OK! 10 Seconds please!
OK! 10秒! 1,2,3...8,9,10!	10秒間、全員の答えが書いてある用紙を見て答えを選ぶ
Please!	ドッジボールで当てたこと?
Yes! ピンポン!	Oh! Why?
初めてあてて嬉しかったから	よかったね。Great!
Do you like ドッジボール?	No
Why?	だって、あたったら痛いやん。
Ah-, I see Thank you.	Thank you! See you!

《ぼかぼかイングリッシュを取り入れたやり取り》



※ ○ がぼかぼかイングリッシュ

クイズを出す人と答える人の役割を交代して再度やり取りを行う

ぼかぼかふせんに記入し、記入後は互いに読み合っってプレゼントする

いつも笑顔で接してくれて
心かぼかぼかになりました。
○ちゃんとお話すといつも楽
しくなります。これから
ぼかぼか言葉をたくさん
使って楽しく会話しようね。



【ぼかぼかタイムB】

やさしくていねいに分からない
ところをおしえてくれてあり
がとう
○シスターをしてとても分か
りやすかったです。
○紙やりとりをしたいてす。

ペアを変えて、またやり取りをする

(3) 考察

ペアに1台タブレットPCを置き、毎時間、児童の活動の様子を動画に記録した。この動画記録と事前と事後のアンケート、授業後の振り返りシートの記述を基に検証する。

ア 短期的考察(検証授業③による考察)

【検証の視点I】 ぼかぼかイングリッシュを取り入れたやり取り

互いの気持ちを大切にしながら自分の気持ちや考えを伝え合おうとしているかについて、以下の4点で検証していく。

① 量的変化を調べた。全ての児童がやり取りの中で使ったぼかぼかイングリッシュの総数を調べると、**図5**のような結果が見られた。児童のやり取りの中で、ぼかぼかイングリッシュの数が次第に増えていることが分かる。個人の数の変化を見ても全員が増えていた(**表1**)。また、ぼかぼかイングリッシュ以外の英語(“10seconds” “winter vacation”等)を使った総数も、同様に増えていた(**図6**)。これらの結果は、児童がぼかぼかイングリッシュを使うことで自分の気持ちや考えを伝えやすくなったことと、「One more たこぼ」シートを使うことで、自分が使いたい表現を児童が得ることができたためと考えられる。シートは授業の振り返り時に、使いたい表現が欲しい児童のみ使用してもよいこととした。すると、20名(57%)が3回とも全て使用し、11名(31%)が2回使用していた。約9割の児童が新しい表現を得ようとし、動画から実際にそれらを使っている姿が見られた。

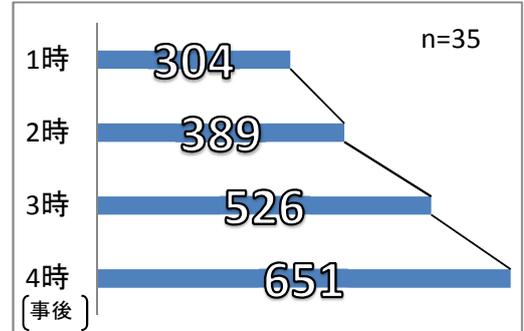


図5 全児童が使ったぼかぼかイングリッシュの総数

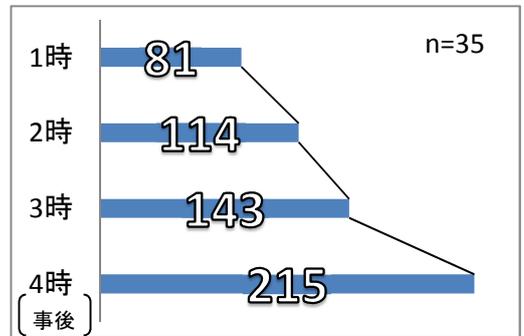


図6 全児童がぼかぼかイングリッシュ以外の英語を使った総数

表1 個人が使ったぼかぼかイングリッシュの数の変化

児童	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35
1時	9	5	5	5	7	12	12	7	7	9	8	9	9	7	8	5	15	8	12	9	6	10	8	8	14	8	21	5	6	21	7	9	13	7	7
4時	13	16	18	24	18	13	31	23	17	17	24	15	27	16	19	11	18	18	25	15	9	15	22	11	31	16	26	16	17	32	12	10	14	21	19
増減	4	11	13	19	11	1	19	16	10	8	16	6	18	9	11	6	3	10	13	6	3	5	14	3	17	8	5	11	11	11	5	1	1	14	12

② 質的变化を5段階で調べた(**図7**)。1時目では、**⊗**が1名、**◎**が13名だったが、4時目(事後)では**⊗**が27名、**◎**が8名になった。また、個人の質の変化を見ても、31名(89%)の児童の質が上がっていた(次頁**表2**)。児童のやり取りの質が徐々に上がったことが分かる。動画からも、クイズを成立させるための5W1Hの表現だけでなく、相手の言葉に理解を示し、共感しながらやり取りを進めている児童の姿が見られるようになった。さらに、答えである友達への思い出に対して、もっと知ろうと会話を続けたり、気持ちを温かくする表現を使ったりする児童も見られるようになった。ぼかぼかイングリッシュが持つ、互いの気持ちを温かくする効果が児童の人

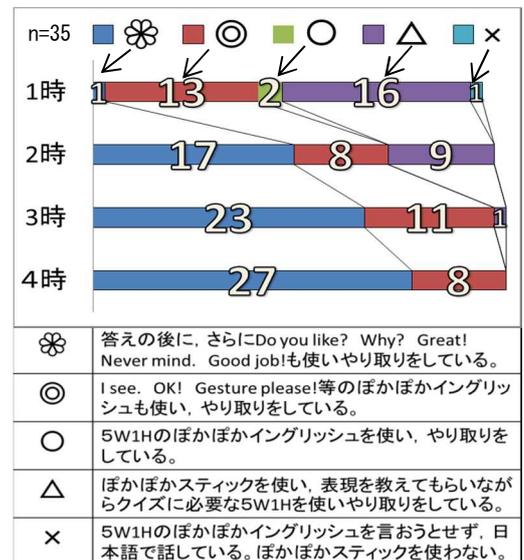


図7 全児童のやり取りの質の変化

間関係をよくし、児童のやり取りの質を高めたと思われる。また、1時に×の児童が1名と少なかったのは「ぼかぼかスティック」があったことで、分からない時に教師や友達に表現を尋ねやすくなり、活動の助けとなったためと考えられる。

表2 個人のやり取りの質の変化

児童	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35
1時	◎	○	△	△	△	◎	◎	△	△	◎	△	◎	⊗	×	△	△	◎	◎	◎	△	△	△	◎	◎	△	△	△	△	△	◎	◎	△	△		
4時	◎	⊗	⊗	◎	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	◎	⊗	◎	⊗	⊗	⊗	⊗	◎	⊗	⊗	◎	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	◎	◎	⊗	⊗	⊗	

③ 非言語メッセージの変化を調べた(図8)。多くの児童が非言語メッセージを使いながら自分の気持ちや考えを伝えようとしていることが分かる。ぼかぼかイングリッシュを使うことで伝わる喜びを感じたことが、もっと気持ちや考えを伝えたいという児童の姿につながったと考えられる。ジェスチャーを使う児童が徐々に増えていたのは、伝えたい気持ちはあるが、表現が足りない分を何とかして相手に伝えようとする児童の姿の表れだと考える。また、全員が、相手の目を見て笑顔でやり取りをしていたことから、互いの気持ちを大切にしたりやり取りをしていることがうかがえる。

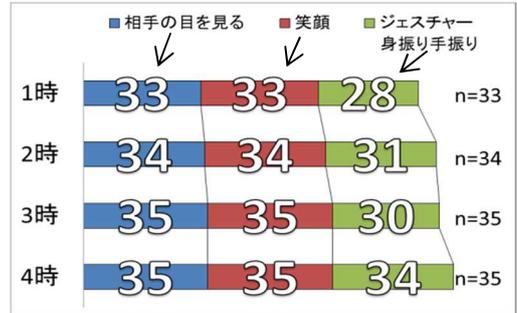


図8 全児童の非言語メッセージの変化

④ 児童の意識の変容を調べた。「英語で自分の気持ちや考えを伝えようとしているか」では「伝えようとしている」が23名(66%)から33名(94%)に増えている(図9)。同様に「ジェスチャーや表情で気持ちや考えを伝えようとしているか」では「伝えようとしている」が17名(49%)から32名(91%)に増えている(図10)。児童が言語、非言語あらゆるメッセージを使って気持ちや考えを伝えようとしていることがうかがえる。

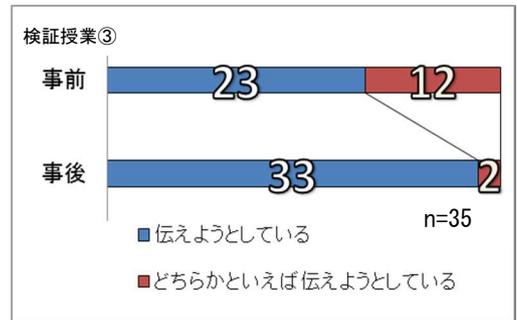


図9 英語で気持ちや考えを伝えようとしているか

以上4点を総合的に判断すると、ぼかぼかイングリッシュを取り入れることは、互いの気持ちを大切にしながら自分の気持ちや考えを伝え合おうとすることに効果があったと考える。

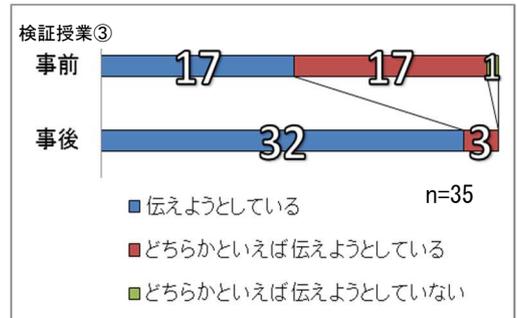


図10 ジェスチャーや表情で気持ちや考えを伝えようとしているか

【検証の視点Ⅱ】ぼかぼかタイムの設定

またやり取りをしたいという意欲を高めたかについて以下の2点で検証する。

① まず、児童の意識調査から、ぼかぼかタイムがまたやり取りをしたいという意欲につながったかを検証した。ぼかぼかタイムAでは、30名(88%)、ぼかぼかタイムBでは、33名(94%)の児童がぼかぼかタイム後に「またやり取りがしたい」と回答していた(表3)。その理由として、「褒められて嬉しいから」と多くの児童が回答していた。肯定的なコメントを

表3 またやり取りがしたいと思ったか

(人)	思った	少し思った
ぼかぼかタイムA (n=34)	30	4
ぼかぼかタイムB (n=35)	33	2

表4 どちらがまたやり取りをしたいと思わせるか

(n=35)	人数
ぼかぼかタイムA	3
ぼかぼかタイムB	11
両方	21

友達から直接言ってもらえることが、またやり取りをしたいという意欲につながったと考えられる。さらに、ぼかぼかタイムAとぼかぼかタイムBのどちらがより意欲を高めたかを問うと、「両方」と回答した児童が最も多く、21名（60%）であった（前頁表4）。その理由として、ぼかぼかタイムAは「自分のやり取りのよい所が詳しく知れて、『次はこうしよう』と思いが温かくなるから」、ぼかぼかタイムBは「やり取りしている相手から感想をもらえるのでとてもうれしく心がぼかぼかするから」といった記述が多く見られた。このことから、ぼかぼかタイムにはどちらか一方の視点でなく、やり取りを具体的に褒めることと「嬉しい」「楽しい」等の気持ちを伝えることの両方の視点が児童の意欲を高めるために必要だということが分かる。

また、振り返りシート「どんなやり取りをまたしたか」では、「英語をたくさん使う」「互いの気持ちが温かくなる」やり取りをまたしたいと回答した児童がそれぞれ53名と最も多かったことから、児童のまたやり取りがしたい意欲がうかがえる（表5）。

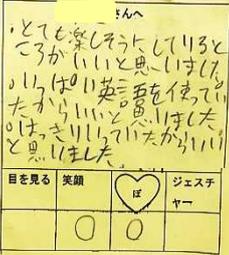
表5 どんなやり取りをまたしたいか

複数回答あり (人)	英語をスラスラ言う	英語をたくさん使う	気持ちが温かくなる	誰とでもする	その他
ぼかぼかタイムA (n=34)	18	25	23	15	5
ぼかぼかタイムB (n=35)	14	28	30	17	6
合計	32	53	53	32	11

② 次に、ぼかぼかタイム前後の児童のやり取りの変容から、またやり取りをしたいという意欲が見られたかを検証した。ぼかぼかタイムA前後の児童①のやり取りの変容を示す（資料3）。

答えを間違った友達に「NO!」と言った後、答えを教えてやり取りを終えていた。

【ぼかぼかタイムA前】



【児童①がもらった付箋】

友達から褒められることで

【児童①】

Please!	運動会のリレー?
おいしい! おいしいって英語で何だったっけ?	Close! だよ。
Close! Close!	じゃあ、運動会の組体操?
No---. Never mind!	えー!? 答え何?
かけっこで1位を取ったこと	Ah--! Good!
Do you like かけっこ?	Yes!
Oh! Me,too. Thank you!	

【ぼかぼかタイムA後】

「Close!」の表現を使おうと友達に尋ねていた。

「Never mind!」の表現も使い友達を励ましていた。

答えの後に、「かけっこが好きか」を友達に尋ね、友達のことをもっと知ろうとしていた。

資料3 児童①のやり取りの変容

ぼかぼかタイム後、この児童のように表現を使おうと進んで尋ねたり、教え合ったりする児童が多く見られた。児童①のぼかぼかイングリッシュの数を比較すると、ぼかぼかタイム後は、7個増えていた。このようにぼかぼかタイム後に、ぼかぼかイングリッシュの数を増やしていた児童は、25名（74%）であった。また、そのうち8名は、質も上がっていた。友達に褒められたことで、ぼかぼかイングリッシュの数を増やしながらやり取りをしようとする意欲につながったと考えられる。

ぼかぼかタイムB前後の児童⑧のやり取りの変容を示す（資料4）。

友達の発言に、「I see」「OK!」と相づちを打ちながらやり取りをし、答えを聞いたら、やり取りを終えていた。

【ぼかぼかタイムB前】

ぼくの目を見て聞いてくれてありがとう。
はじめてやり取りをして楽しかったです。またやろうね。

【児童⑧がもらった付箋】

嬉しい楽しい等を伝え合うことで

友達から「悔しかった」という言葉を聞いて、「ドンマイ」と声を掛けていた。

友達に「頑張っていたよ。Great!」と褒め、「またしよう!」と英語で伝えていた。

【児童⑧】

What's feeling?	失敗して悔しかった。
Oh-.どんまい。	Answer please!
朝会のセリフを頑張ったこと!	Yes! What do you think? 答え聞いてどう思った?
ぼくは緊張してダメ。〇〇君だからできた。すごい!Great!	Thank you.
Let's play again! Thank you!	Let's play again!

【ぼかぼかタイムB後】

資料4 児童⑧のやり取りの変容

この児童のように、クイズの答えを当てることに終始するやり取りから、相手の言葉に温かく反応し、相手のことをより知ろうと、やり取りをする児童の姿が見られるようになった。アンケートにも、35名全員が「友達の気持ちを大切にしながらやり取りをしている」と回答していた（図11）。また、この児童を含む多くの児童が、ぼかぼかタイム後に普段あまり話さない児童ともやり取りをしていた。ぼかぼかタイムで感想を伝え合うことで、温かく、いろいろな人とやり取りをしようとする意欲につながったと考えられる。

以上2点を総合すると、ぼかぼかタイムを設定することは、児童の「またやり取りをしたい」という意欲を高め、伝え合おうとする児童の姿につながったと考える。

イ 長期的考察(検証②から検証③までの児童の変容、5月から1月の児童の意識の変容による考察)

継続して取り組むことで児童の伝え合おうとする姿がよりよい方向に変容したかを検証する。

ぼかぼかイングリッシュの数、やりとりの質が⊗の児童数の変容を見ると、共に1月の検証③の1時で数値が一旦下がるが、検証③の2時以降、検証②の伸びよりも大きな伸びを示した（図12、図13）。また、事前事後アンケート「外国語活動で楽しいことは何か」では、「ゲーム」と回答した児童が、30名か

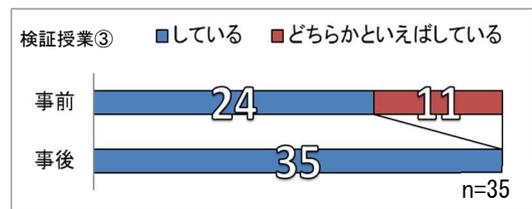


図11 友達の気持ちを大切にしながらやり取りをしているか

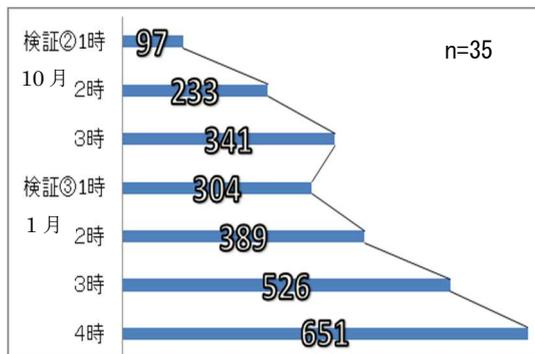


図12 全児童が使ったぼかぼかイングリッシュの数の変容

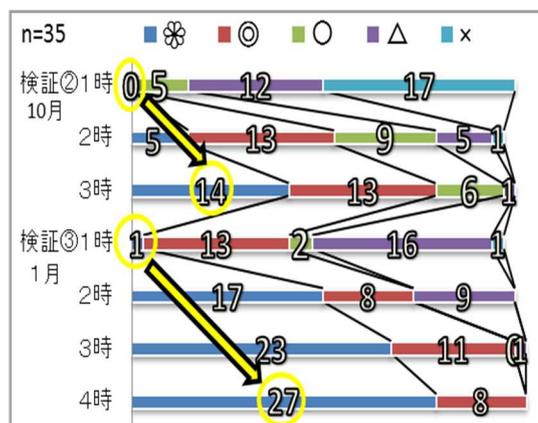


図13 ぼかぼかイングリッシュを使ったやりとりの質の変容

ら20名に減り、一方で「英語でやり取りをすること」と回答した児童が14名から29名に増えていた(図14)。児童がゲームの楽しさから、やり取りの中で自分の気持ちや考えを伝えることの楽しさに目を向け始めたことがうかがえる。これからも、児童が自分の気持ちや考えを伝えたいと思うようなやり取りを行わせていくことが大切であると考えます。

さらに、本研究を始める前(5月)と、後(1月)の児童の意識の変容を比べた。事前事後アンケート「自分の気持ちや考えを伝えようとしているか」において「伝えようとしている」と回答した児童が、14名から33名に増えていた(図15)。

以上のことから、ぽかぽかイングリッシュを取り入れたやり取りと、ぽかぽかタイムを組み合わせた学習に継続して取り組むことは、児童のぽかぽかイングリッシュの数、やり取りの質を向上させ、伝え合おうとする児童の育成につながると考えられる。今後、年間を通して、上記の学習に継続的に取り組んでいくことが大切であると考えます。また、他学年にも対応する学習過程にするには、どのようにしたらよいかも考えていきたい。

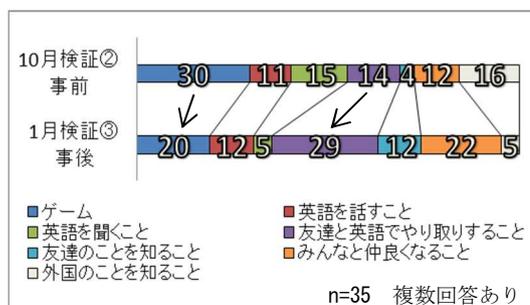


図14 外国語で楽しいことは何か

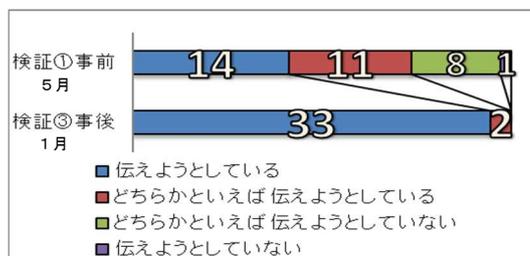


図15 自分の気持ちや考えを伝えようとしているか

8 研究のまとめと今後の課題

(1) 研究のまとめ

- ・ぽかぽかイングリッシュとぽかぽかタイムを組み合わせた学習は、感情のやり取りを大切にしながら自分の気持ちや考えを伝え合おうとする児童の育成に有効であった。

(2) 今後の課題

- ・ぽかぽかイングリッシュとぽかぽかタイムを組み合わせた学習を取り入れた年間計画の作成
- ・他学年にも対応する学習過程の工夫

《引用文献》

- (1) 文部科学省 『小学校学習指導要領解説外国語編』 2017年 p. 12
- (2) 文部科学省 『小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック』 2017年 p. 13
- (3) 国立教育政策研究所 『小学校英語教育に関する調査研究報告書の概要』 2017年 p. 3
- (4) 佐賀県教育センター 『国際コミュニケーションの素地をつくる英語活動～外国語活動の指導の手引～(佐賀県版)』 平成20年 p. 3

《参考文献》

- ・辰野 千寿 『科学的根拠で示す学習意欲を高める12の方法』 2009年 図書文化社
- ・樋田 光代 『小学校英語ホップ・ステップ・中学!』 2008年 文溪堂
- ・宗 誠 『小学校ならではの英語活動』 2007年 文溪堂
- ・直山 木綿子 『総合教育技術』 2017年6月 小学館
- ・相川 充 『ソーシャルスキル教育で子どもが変わる小学校』 1999年 図書文化社

《参考URL》

- ・宗 誠 「宗誠の外国語活動ブログ授業のちょっとネタ」 2013年2月23日
<http://blog.goo.ne.jp/yamanishieigo>